



## 大学院医学研究院 松宮護郎教授の最終講義が行われました

令和 8 年 3 月をもって退職される大学院医学研究院 松宮護郎教授（心臓血管外科学）の最終講義が、3 月 30 日（月）に医学部附属病院ガーネットホールにて行われました。当日は本学の教職員・学生、学外から多くの来場者が聴講しました。

松宮教授は昭和 61 年に大阪大学医学部を卒業後、大阪大学医学部附属病院 第一外科に入局。翌昭和 62 年に国立呉病院のレジデントを経て、平成 6 年に大阪大学大学院医学系研究科博士課程（外科学第一）を修了後、同年よりアメリカ合衆国 ロマリнда大学で客員研究員を、クリーブランドクリニックでクリニカルフェローを務められました。平成 11 年に大阪大学医学部 外科学第一教室の助手に就任後、平成 18 年に大阪大学大学院医学系研究科 助教授、平成 19 年に大阪大学大学院医学系研究科 准教授および大阪大学医学部附属病院 病院教授に就任された後、平成 21 年 10 月に千葉大学大学院医学研究院 心臓血管外科学の教授に就任され、以降 16 年半にわたり心臓血管外科学の研究活動・発展に大きくご貢献されました。

最終講義は、大鳥附属病院長からのご挨拶、三木研究院長からのご挨拶に続いて、演題『経験、熟練、そして進化』についてお話しされました。講演終了後は、学生代表をはじめ、多くの関係者から謝辞と花束が贈呈されました。

松宮教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。



大鳥附属病院長によるご挨拶



三木研究院長によるご挨拶



最終講義の様子



学生代表による謝辞



花束贈呈